デュプレッシ=ベルトー画『人物百態』

講師(西洋服装史担当)能澤　慧子

本学図書館所蔵の西洋版画集の多くは、いわゆるファッション・プレートの類であろう。そこにはファッション、つまり流行にとってかつては不可欠であった華やかさと贅沢、人目を引いたであろう奇抜さが、画家の筆で見事に描き出されており、見る者を非現実の世界へと誘惑する。それに引き替え、今回紹介するのは、変り映えのしない、貧相な、時にはたくましく、時には惨めな、あるいは滑稽味さえある民衆の日常生活の、現実そのものを見る者につきつける版画集である。

ジャン・デュプレッシ=ベルトー原画及び刻版『人物百態―多種多様な仕事中の労働者、芝居の場面、庶民の情景、乞食、軍人、騎兵、水飲み場の馬、祭、村でのダンス等々』(*Recueil de cent sujets de divers genres*, dessinés et gravés a l'eau-forte par J.Duplessis-Bertaux. Paris, chez les éditeurs, rue Boucher no.1, 1814 〔383.135-D〕

この副題が示す通り、本書は普段着姿の多種多様な職種の人々の、その生業(なりわい)を描いたエッチング集であり、わずか8.5×6cmの画面の中にフランス第一帝政期、及び王政復古期の民衆のありふれた、またそれだけに見失われがちなその姿を彷彿とさせてくれる。ことに個々の労働に特有な姿態、その道具や持物の微細な描写には興味をそそられる。そしてここに示された画家の、その主題である庶民への関心は、パリの行商人を描いた版画集のもう一つの名品、ヴェルネVernet, Carle の『パリの呼び売り』〔383.135-V〕が、本書より数年遅れて1820年に出版されていることからも、当時の風潮の反映と思われる。

作者デュプレッシ=ベルトー(1747～1819)はパリ生れの銅版画家である。その師の一人ヴィエンVien(1716～1809)は歴史画家、エッチング家として高名で、その多くの弟子の中にはルイ=ダヴィッド Louis-David がいた。もう一人の師ルバ Lebas, Jacques-Philippe (1707～1783) もやはり歴史画家として知られていたが、他に宗教画、風俗画、肖像画などにも優れていた。デュプレッシ=ベルトー自身はこれら師達の得意領域を受け継いで、旅行での風物の描写や戦争画で名をなした。中でも革命前ではショワズール侯爵 Marquis de Choiseul (1719～1788)のエジプト、イタリア、ギリシャ旅行記のさし絵版画、革命後では先述のヴェルネ原画による『総裁政府と帝政期フランスの田園』の刻版はよく知られている。

また加えて、その人生の、また画家としての最盛期に遭遇したフランス革命は、汲めども尽きぬ画業の泉となったのであろう。この期の情景を描写した作品は現在高く評価されており、ラルース百科辞典は『ルペルティエール・ド・サン・ファルジャンの虐殺』、『ルイ16世の処刑』を挙げてい

第8部第7図　抜歯師。麻酔ではなくリュートや笛の鳴物入りで歯を抜く残酷な見世物。

る。

ただし本書の版画には革命初期の緊迫した血腥(なまぐさ)さは、軍隊の行軍やけんかなどを主題とした幾枚かには感じられるものの、全体としてはやや平穏をとり戻したフランス庶民の、むしろのどかな雰囲気が感じられる。いや、もしかすると、歴史書が伝える激しい社会変動の中でも、庶民は案外こんな風に、地道に、営々と自己の生業にいそしんでいたのかもしれない。

次に本書の内容を順を追って紹介しよう。まず9頁に及ぶ英仏両国語による序文、それに画家の肖像画1枚、扉絵1枚を含む100枚のエッチングと続く。序文ではエッチングやアクアティントの史上重要な四人の作家、つまりジャック・カロJacques Callot (1592〜1635)、ステファノ・デ・ラベルラStephano de Labella (1610〜1664)、セバスチャン・ルクレルSébastian Leclerc (1637〜1774)、そしてジャン・デュプレッシ=ベルトーを挙げて、その作風、功績などを紹介している。この中で筆者はデュプレッシ=ベルトーを現代のカロと呼んでいる。

肖像画と扉絵を除く98枚の版画は、ヒラーの文献目録によれば、初版では8冊に分冊され、その後合本して出版されたものである。8つに分かれた内容、各部毎のタイトルページが、その当初の形式をとどめている。コラの文献目録には98枚全部の画題が記されているが、ここでは各章の主題と特徴などについてのみ、触れておこう。

第1部　様々な労働者達　12枚　建築、土木工事に関わる職人や肉体労働者、つまり石工、左官、錠前屋、土方、人夫などの労働の情景を表わしている。

第2部　多様な隊の軍人　12枚　竜騎兵、擲弾兵、猟歩兵、工兵、銃兵、将校等がそれぞれ特有の軍服を着ている。当時の人々には一目でその地位や職務の違いが見分けられたのだろう。

第3部　雑多な職人　12枚　ビラを貼る職人、樽職人、大工、屋根屋、指物師、車大工、木びき、刃物研ぎ職人、水運び、靴直し、靴みがき、煙突掃除夫。

第4部　パリを往来する物売り　12枚　絵、リンネル類、花、傘、水、りんご、シャンパン、メロン、プラム等の行商人達。子連れの女性の物売りが2回も登場する。少なくなかったのだろう。

第5部　旅芸人のパレード、村の宵祭り、祭りの翌日の3枚、軍隊の行軍等の情景7枚、その他2枚

第6部　様々な舞台の場面　12枚　俳優名、その配役名が付されている。

第7部　乞食　12枚　この部だけは1枚ごとにタイトルが付いていない。男7枚、女5枚、うち2人の女乞食が子供を連れている。

第8部　遊戯、大道芸人、戦闘場面など　14枚　トランプ占い、曲芸師、手品師、歌手、フルート吹きなどの見世物の類、ディアブル遊び、羽根つきなどの簡単な遊び、けんか、野営の光景など。

Mde de Prunes.

第4部第11図　プラム売り。パリの街を呼び声を上げて売り歩く行商の一人。幼児を連れている。